

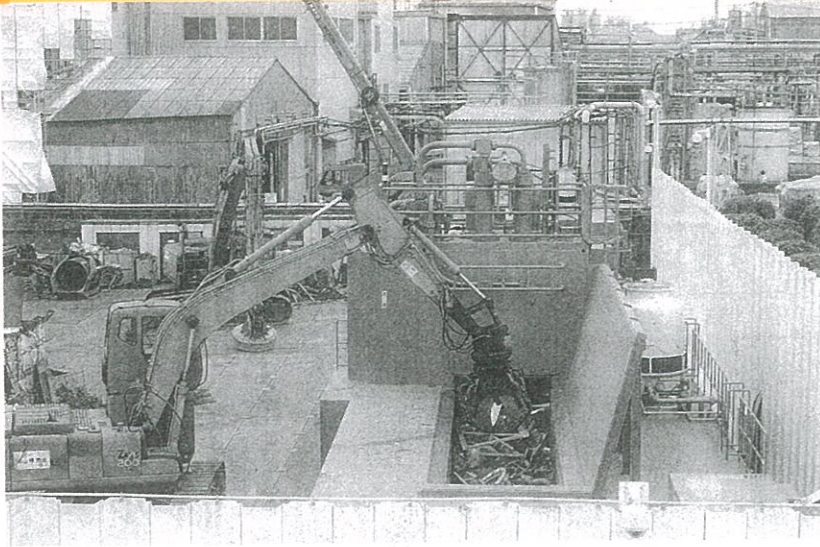
金属切断機更新、効率アップ

山原商会、敷地内をリフレッシュ

製鋼原料加工・販売を手掛ける山原商会（山原一紀社長、宇部市沖宇部）は、昨年から進めていた本社敷地内のリフレッシュ工事で県内屈指の金属切断機「1000ト圧ニューギロシャー」の更新を終え、新しい事業環境を整えた。使用済みの鉄をリサイクルし、製鋼メーカーに納入するなど、資源リサイクル企業として循環型社会の構築に一層取り組むとしている。

宇部の環境先進 都市実現にも貢献

作業効率が上がったヤード（山原商会で）



同社は製鋼原料加工・販売とプラントメンテナンスの2本柱で事業を進めている。メーンの製鋼原料は、工場や壊された建物などから発生する鉄スクラップを買い取り、金属切断機で切断したり、プレス機で加工したりした後、宇部、山陽小野田市、福岡県北九州市の製鋼メーカーに納めている。

本社ヤードには大きな建屋があったが、敷地内を有効活用するため、一

くの原点を学ぶとともに、産業、社会の基盤を支えていることが分かった」と語った。

気にオープンヤードへとリフレッシュ。これに合わせ、17年間使っていた切断機も更新した。重機は動きやすくなり、設備のレイアウトも改善したことで、作業効率、加工処理が向上した。総事業費は2億5000万円。

3日には工場見学会を開き、環境に貢献する鉄リサイクルをアピール。本社屋上から作業の流れや金属切断機が動く様子を公開した。視察した久保田后子市長は「ものづ

山原社長は「今年で創業66周年。伝統は残し、成長の過程で変えるところは変えていかなければならない。金属リサイクル事業を通して宇部の環境先進都市実現に貢献できれば、今後も業界を理

解していただくために、取り組みを積極的に発信していきたい」と意欲を示した。

国内で年間に生産される鉄の3割は鉄リサイクル。電炉メーカーに加え、鉄鉱石などを原料とする高炉メーカーでも二酸化炭素(CO2)排出削減のため、使用量が増えているという。(古重)

「声が変わった」確認を

市内女性宅に息子名乗る不審電話

宇部署は3日、市内の70歳代女性宅にオレオレ詐欺の不審電話があったと発表した。息子を名乗る男からの電話は、1日午後10時ごろ3日午前11時20分ごろの2回。最初に「喉が痛くて声が変わった。携帯電話番号が変わった」とあり、2回目は「飲み屋で知り合った既婚女性を妊娠させてしまい、相手の夫から訴えると言われた。弁護士が入り慰謝料が300万円となった。一度には無理だろうから、きょう100万円を振り込んでほしい」と

歯の健診や公開

センター 7日に健

歯の健康フェアは、7日午前10時から宇部市シルバーふれあいセンターで開かれる。宇部歯科医師会、宇部歯科衛生士会、市がタイアップし、歯科健診や公開講座などを通じて、市民の健康保持に貢献する。

歯と口の健康週間の関連行事。1階には無料の健診コーナーを設け、ブラッシング指導、フッ化物洗口、なんでも相談、先着200人の唾液検査を行う。参加者には歯ブラシをプレゼントする。2階では山口大学大学院医学系研究科歯科口腔(二二二二) 外科の上山

とあり、2回目は「飲み屋で知り合った既婚女性を妊娠させてしまい、相手の夫から訴えると言われた。弁護士が入り慰謝料が300万円となった。一度には無理だろうから、きょう100万円を振り込んでほしい」と

逮捕容 島根県松 性宅に 日ごろ、 一や架 乗って 話をかけ 名目と 万円を 貸

「無料」 10

労働に